

支援費制度で利用しているサービスがあるか

	人数	%
はい	8	44.4%
いいえ	10	55.6%
計	18	100.0%

→

記入者の中で利用しているサービス

(複数回答、6人)	
市区町村から委託された団体	1
社協ヘルパー	1
民間団体	4
ガイドヘルプ	1
デイサービス	0
ショートステイ	0
施設関連サービス	0

支援費サービス:合計時間	
62時間	1
80時間	1
100時間	1
210時間	1
480時間	1
744時間	1

内容(複数回答、7人)	
身体介護	3
家事援助	4
移動介護	6
日常生活支援	4
その他	0

合計時間	
80時間	1
92時間	1
100時間	1
200時間	1
396時間	1
480時間	1
744時間	1

自己負担	
なし	7

所得税	人数	%
課税	7	38.9%
非課税	11	61.1%
計	18	100.0%

市(区)町村民税	人数	%
所得割を課税	4	22.2%
均等制のみ課税	0	0.0%
非課税	14	77.8%
計	18	100.0%

生活保護	人数	%
受給している	6	33.3%
受給していない	12	66.7%
計	18	100.0%

<クロス集計結果表>

表1 性別と居住形態のクロス表

		居住形態				合計
		家族と同居	一人暮らし	グループホーム	施設	
性別	男	1	6	2	1	10
	女	3	4	1	0	8
合計		4	10	3	1	18

表2 手帳と居住形態のクロス表

		居住形態				合計
		家族と同居	一人暮らし	グループホーム	施設	
手帳	身体障害	2	5	1	1	9
	知的障害	1	2	1	0	4
	精神障害	1	3	1	0	5
合計		4	10	3	1	18

表3 年代と居住形態のクロス表

		居住形態				合計
		家族と同居	一人暮らし	グループホーム	施設	
年代	20代	1	1	0	0	2
	30代	2	3	1	0	6
	40代	1	2	1	0	4
	50代	0	3	0	1	4
	60代	0	1	1	0	2
合計		4	10	3	1	18

表4 性別と就労のクロス表

		就労		合計
		仕事をした	仕事をしていない	
性別	男	5	5	10
	女	4	4	8
合計		9	9	18

表5 手帳と就労のクロス表

		就労		合計
		仕事をした	仕事をしていない	
手帳	身体障害	4	5	9
	知的障害	3	1	4
	精神障害	2	3	5
合計		9	9	18

表6 年代と就労のクロス表

		就労		合計
		仕事をした	仕事をしていない	
年代	20代	2	0	2
	30代	4	2	6
	40代	2	2	4
	50代	1	3	4
	60代	0	2	2
合計		9	9	18

表7 要介助と就労のクロス表

		就労		合計
		仕事をした	仕事をしていない	
要介助	介助が必要	7	5	12
	介助は不要	2	2	4
合計		9	7	16

表8 就労と所得税のクロス表

		所得税		合計
		課税	非課税	
就労	仕事をした	6	3	9
	仕事をしていない	1	8	9
合計		7	11	18

表9 就労と住民税のクロス表

		住民税		合計
		所得割を課税	非課税	
就労	仕事をした	4	5	9
	仕事をしていない	0	9	9
合計		4	14	18

表10 就労と生活保護のクロス表

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
就労	仕事をした	2	7	9
	仕事をしていない	4	5	9
合計		6	12	18

表11 性別と生活保護のクロス表

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
性別	男	5	5	10
	女	1	7	8
合計		6	12	18

表12 手帳と生活保護のクロス表

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
手帳	身体障害	4	5	9
	知的障害	1	3	4
	精神障害	1	4	5
合計		6	12	18

表13 年代と生活保護のクロス表

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
年代	20代	0	2	2
	30代	1	5	6
	40代	1	3	4
	50代	3	1	4
	60代	1	1	2
合計		6	12	18

表14 居住形態と生活保護のクロス表

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
居住形態	家族と同居	0	4	4
	一人暮らし	5	5	10
	グループホーム	1	2	3
	施設	0	1	1
合計		6	12	18

表15 収入と生活保護のクロス表(記入していた人の数)

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
収入	賃金	2	8	10
	年金	5	9	14
	手当1	3	4	7
	手当2	3	2	5
	手当3	2	3	5
	貯金取り崩し	0	1	1
	その他1	6	0	6
	その他2	2	1	3

(注)

年金 (障害基礎年金1級&2級)

手当1 (重度障害者手当等)

手当2 (特別障害者手当)

手当3 (障害者福祉手当等)

その他1 生活保護費

その他2 その他

表16 支出と生活保護のクロス表(記入していた人の数)

		生活保護		合計
		受給している	受給していない	
支出	家賃	7	7	14
	共益費	4	1	5
	光熱費	6	6	12
	食費	7	8	15
	再掲外食費	4	6	10
	サービス利用負担	3	0	3
	交通費	6	9	15
	所得税	0	3	3
	住民税	0	2	2
	国民健康保険料	1	4	5
	その他1	5	7	12
	その他2	6	9	15
	その他3	3	4	7
	貯蓄	3	3	6

(注)

光熱費 (例:ガス、水道、電気など概算)

その他1 (例:電話料金、携帯電話料金)

その他2 (例:交際費、こづかい)

その他3 (例:保険料、債務返済等)

表17 収入の平均額(記入した人の平均)

		生活保護	
		受給している	受給していない
収入	賃金	16,000	135,750
	年金	102,372	79,506
	手当1	30,933	32,250
	手当2	24,873	26,840
	手当3	16,300	15,500
	貯金取り崩し		30,000
	その他1	126,017	
	その他2	80,015	30,000
	合計	237,145	209,073

(注)

- 年金 (障害基礎年金1級&2級)
 手当1 (重度障害者手当等)
 手当2 (特別障害者手当)
 手当3 (障害者福祉手当等)
 その他1 生活保護費
 その他2 その他

表18 支出の平均額(記入した人の平均額)

		生活保護	
		受給している	受給していない
支出	家賃	57,793	66,200
	共益費	2,750	30,000
	光熱費	16,774	12,000
	食費	57,622	38,375
	再掲外食費	37,871	16,667
	サービス利用負担	63,000	0
	交通費	7,178	18,039
	所得税	2,000	5,867
	住民税	0	4,650
	国民健康保険料	0	12,235
	その他1	14,920	24,429
	その他2	12,833	20,456
	その他3	4,333	11,375
	貯蓄	29,208	104,667
	合計	200,835	168,926

(注)

- 光熱費 (例:ガス、水道、電気など概算)
 その他1 (例:電話料金、携帯電話料金)
 その他2 (例:交際費、こづかい)
 その他3 (例:保険料、債務返済等)

障害（碍）者の生活保障実態調査にかんするアンケート

記入日 2003年 月 日

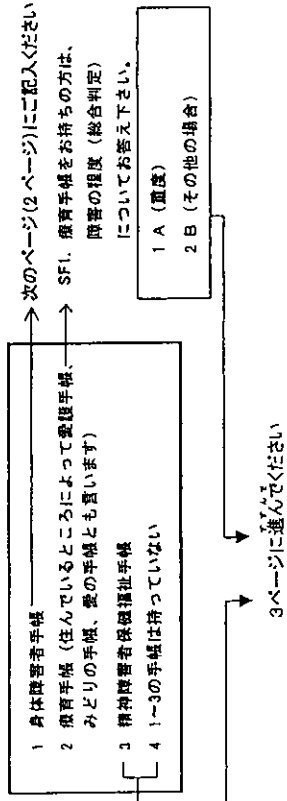
調査にご協力いただき、ありがとうございます。以下の問いにお答えいただき、尚封の返信用封筒で送り返してください。みなさまのプライバシーにかんする情報は、決してほかに知られることのないようにいたします。また、結果をまとめるときにも、個人が特定できるような記述はいたしませんので、ご安心ください。

ふりがな
お名前

ご住所
都・県 区・市

性別
男・女
※○でかこんでください

F1. 手帳についてお答えをお願いします
あなたがもっている手帳をえらんで、○をつけてください。



S.F2. 「F1. 身体障害者手帳」に○をつけた方におきます。あなたの障害の種類、程度について、あてはまるところに○をつけてください。原因・疾病名については番号をえらび、記入してください。

群	障害の種類	障害の程度									原因	疾病名		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9			その他	
I	1 視覚障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	2 聴覚障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	3 平衡機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	4 発声、言語、そしゃく機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
II	5 上肢切断	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	6 下肢切断	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	7 上肢機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	8 下肢機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
III	9 体幹機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	10 脳原性全身性運動機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	11 全身性（多肢及び体幹）運動機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	(1) 上肢機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
IV	(2) 下肢機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	(3) 体幹機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	12 心臓機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	13 呼吸器機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
V	14 じん臓機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	15 ぼうこう・直腸機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	16 小腸機能障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
	17 重複障害	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		
VI	18 総合判定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	9 級外		

- (障害の原因)
- 1 交通事故
 - 2 労働災害
 - 3 その他の事故
 - 4 戦傷・戦病
 - 5 戦災
 - 6 感染症
 - 7 中毒性疾患
 - 8 その他の疾患
 - 9 出生時の構傷
 - 10 加齢
 - 11 その他
 - 12 不明

- (障害の疾病名)
- 1 脳性マヒ
 - 2 脊髄性小児マヒ
 - 3 脊髄損傷 I (対マヒ)
 - 4 脊髄損傷 II (四肢マヒ)
 - 5 進行性筋萎縮性疾患
 - 6 脳血管障害
 - 7 脳挫傷
 - 8 その他の脳神経疾患 (1, 6, 7を除く)
 - 9 骨関節疾患
 - 10 リウマチ性疾患
 - 11 中耳性疾患
 - 12 内耳性疾患
 - 13 角膜炎
 - 14 水晶体疾患
 - 15 屈折性眼・視神経系疾患
 - 16 じん臓疾患
 - 17 心臓疾患
 - 18 呼吸器疾患
 - 19 ぼうこう疾患
 - 20 小腸疾患
 - 21 小腸疾患
 - 22 その他
 - 23 不明

1. あなたの居住形態についておききます。

1-1. あなたはいま、どのようにくらしていますか。ひとだけえらんで番号に○をつけてください。

→ S1-1-1. 一緒にくらしている
 1. 家族といっしょにくらしている
 2. 一人だけくらしている
 3. 友人とくらしている
 4. グループホームでくらしている
 5. 生活寮でくらしている
 6. 通称寮でくらしている
 7. 施設でくらしている
 (⇒)
 8. その他 ()

→ S1-1-2. 一緒にくらしているのはだれですか。あてはまる人すべてに○をつけてください。
 1. 父親
 2. 母親
 3. きょうだい
 4. 笑または妻
 5. 子ども
 6. その他 ()

1-2. あなたのおすまいは、次のうちどれですか。

1. あなた自身の持家
 2. あなたの家族の持家
 3. アパートやマンションを借りている
 4. 会社の寮、社宅などを借りている
 5. 公団、市営住宅などの公営住宅を借りている
 6. 借間
 7. その他 ()

1-3. あなたのすんでいる家について、改善・設置したいと願いますか。

1. 改善・設置した(新築のときに通した標準にしたものを含む)
 2. 改善・設置したくても、補正上、むつかしい
 3. 改善・設置したくても、住家・借間のためできない
 4. 改善・設置したくても、おかねがない
 5. 改善・設置の必要はない

→ 「2. 就業状況について」(4ページ)に進んでください。

→ S1-3-1. S1-3-2. S1-3-3 にお答えください。

S1-3-1. あなたのすんでいる家で改善・設置したところはどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 玄関
 2. 風呂
 3. トイレ
 4. 台所
 5. 廊下
 6. 階段
 7. 居室(じぶんの部屋)
 8. 訪問室などの設置
 9. その他 ()

S1-3-2. 費用はどのくらいかかりましたか。

() 円 (1000円未満きりすて)

S1-3-3. 費用はどこからいただきましたか。

1. すべて自己負担
 2. 市区町村などからの補助金
 3. 生活福祉基金の「住宅費基金」() から
 4. その他 () から

2. あなたの就業状況についておききます。

2-1. あなたは今年(2003年)の6月中に仕事をしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 仕事をしました
 2. 仕事をしていない
 → 「3. 生活支出について」(5ページ)に進んでください。

→ S2-1-1. S2-1-2 にお答えください。

S2-1-1. どのようななかたちで仕事をしましたか。あてはまる番号にすべてに○をつけてください。

1. 一般の会社などでの就労
 2. NPO団体などでの就労
 3. 内職
 4. 作業所などでの福祉的就労
 5. その他 ()

S2-1-2. 6月中にはたらいた実日数はどれくらいですか。

() 日

3. 生活支援についておききます。

3-1. あなたは現在どのようなサービスを利用していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. ホームヘルプサービス	
2. ガイドヘルプサービス	
3. デイサービス	
4. ショートステイサービス	
5. 訪問看護	
6. 訪問医務	
7. 日常生活用具結付	
8. 補装具の交付	
9. その他	
10. サービスの利用はしていない	

3-2. あなたは毎日の生活のなかで、介助を必要としていますか。

1. はい

2. いいえ

→「4. 支援員制度について」(6ページ)に送ってください。

→ S3-2-1.今年(2003年)の6月について、替えてください。平均して1日どのくらい、週にどのくらいの介助を受けましたか？(家族が介助をしていれば、それもふくめて替えてください。)

1日 時間 週 時間

4. 支援員制度についておききます。

4-1. 支援員制度以外で介助を受けている場合があれば、お答えください。

個人的に雇用している介助者 (生活費の他に介護加算分をふくむ)	時間/月
ボランティア	時間/月
その他(⇒だれから)	時間/月
家族(⇒だれから)	時間/月
その他	時間/月

4-2. 支援員制度を利用していますか。

1. はい

2. いいえ

→「5. 所帯について」(8ページ)に送ってください。

→ 支援員制度で利用しているサービスについておききます。

S4-2-1.今年(2003年)の6月についてお答えください。

利用したサービス	時間 (月単位で替えてください)
ホームヘルプサービス	
市区町村から委託された団体のヘルパー	時間/月
社会福祉協議会のヘルパー	時間/月
民間による派遣サービス(⇒)	時間/月
民間による派遣サービス(⇒)	時間/月
ガイドヘルプサービス	時間/月
デイサービス	時間/月
ショートステイサービス	時間/月
施設介護サービス(⇒)	時間/月
合計	時間/月

S4-2-2.内容について、お書きします。

	支援費制度	支援費制度以外の介助を利用
身体介護	時間/月	時間/月
食事援助	時間/月	時間/月
移動介護	時間/月	時間/月
日常生活支援	時間/月	時間/月
その他	時間/月	時間/月
合計	時間/月	時間/月

S4-2-3.今年(2003年)4月に支援費制度がはじまってから、今日までの継続でお書きください。
毎月平均いくらの自己負担額をはらってききましたか。

円(100円未満きりすて)

5. あなたの所得についておうかがいします。

5-1. あなたの自身の課税状況等について、あてはまる番号に○をつけてください。

あなた自身の課税状況等	所得		税		
	1	2	1	2	
	市(区)町村民税	均等割のみ課税	課税	非課税	
3	生活保護	1	受給している	2	受給していない

5-2. 今年(2003年)6月の、1ヶ月の収入についてお書きします。

収入	金額
賞金(はたらいて得たお金)	円
年金()	円
手あて	円
.	円
.	円
.	円
しおくり(⇒だれから)	円
貯金などからのきりくずし	円
それ以外の収入	円
.	円
.	円
合計	円

5-3. 今年(2003年)6月の、1ヶ月の支出についてお書きします。

支出	金額 ※100円未満はきりすてくはない。
家賃(グループホームの家賃、ローンをふくむ)	円
共益費	円
光熱費(ガス・水道代、電気などのおよそ各料)	円
食費	円
(うち外食費)	円
福祉などサービス利用費用	円
支援費制度の自己負担など	円
その他のサービス利用費用	円
交通費	円
税金	円
・所得税	円
・住民税	円
社会保険料	円
・国民保険料	円
・介護保険料	円
その他	円
貯蓄(貯金など)	円
合計	円

障害(種)者の生活保障実態調査 ヒアリングシート

ヒアリング日時 2003年 月 日 (: ~ :)

調査者氏名 _____

対象者氏名 _____

調査場所 _____

【0. フェイスシート】

障害者手帳を取得していない方への質問

・障害者手帳を取得していないのは、どうしてですか。

(対象者の言葉をそのまま記入してください)

1. 手帳制度を知らない
2. 手帳を申請するつもりがない
3. 手づぶきが面倒
4. 申請したがもらえなかった
5. その他

(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)

・これから手帳を取得するつもりはありますか。

(対象者の言葉を判断して○をつけてください)

1. ある
2. ない
3. どちらともいえない

(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)

※以上でおわりです。ながいあいだ、ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒で返りかえしてください。

【2. 就労状況について】

就労している方への質問

・具体的な仕事の内容は何ですか。

--

就労していない方への質問

・仕事をしていない理由は何ですか。

<p>(対象者の言葉から判断して○をつけてください)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重度の障害のため 2. 病気のため 3. 高齢のため 4. 働く場がないため 5. 通院がないため 	<p>(対象者の言葉から判断して○をつけてください)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 通勤が困難なため 7. 家事・就労に専念するため 8. その他()

【3. 生活支援について】

なんらかのサービスを利用している方への質問

・現在のサービスに満足していますか。

<p>(対象者の言葉から判断して○をつけてください)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない 	<p>(対象者の言葉から判断して○をつけてください)</p>

・それはなぜですか (答えにかかわらず質問してください)。

(対象者の言葉を、聞いたままに記入してください)

--

全員の方への質問

・今後利用したいサービス、生活をしていく上で必要なサービスはありますか。

(対象者の言葉から判断して○をつけてください)

1. はい
2. いいえ

(対象者の言葉を、聞いたままに記入してください)

--

・「はい」と答えた方にうかがってください。具体的にはどのようなサービスですか。

(対象者の言葉から判断して○をつけてください)

1. 住宅保障(車いす住宅のあわせん、公営住宅単身入居優先制度、住宅費加算など)
2. 医療保障
3. 介助保障
4. レスバイトケアなど家族のための援助
5. その他()

(対象者の言葉を、聞いたままに記入してください)

--

【 介助を必要とする方への質問 】

・現在の介助について、量は足りていますか。

- 〈対象者の言葉を、聞いたままに記入してください〉
1. はい
 2. いいえ
 3. どちらともいえない

〈対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください〉

・現在の介助について、質の面では満足していますか。

- 〈対象者の言葉から判断して○をつけてください〉
1. はい
 2. いいえ
 3. どちらともいえない

〈対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください〉

【 4. 支援費制度について 】

【 支援費制度を利用している方への質問 】

・今得ているサービスは満足がいくものですか。

- 〈対象者の言葉から判断して○をつけてください〉
1. はい
 2. いいえ
 3. どちらともいえない

〈対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください〉

「はい」と答えた方にうかがってください。
・それはなぜですか。

〈対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください〉

「いいえ」と答えた方にうかがってください。

・どのようなところが不満ですか。何を改善すれば満足のいくものとなるのでしょうか。

〈対象者の言葉から判断して○をつけてください〉

1. 内容
2. 利用時間数
3. 介助者の質
4. 施設サービスの質
4. その他

〈対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください〉

【 全員の方への質問 】

・生活支援・支援費制度全般について、考えていることがあれば教えてください。

〈対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください〉

【6. 所得について】

(1)生活保護制度について

生活保護を受給している方への質問

・生活保護を受給している方を教えてください。

(対象者の書葉から判断して○をつけてください)

1. ケースワーカーにすすめられた
2. 助けなくなったので仕方なく
3. 他人介護加算があるから
4. 住居加算があるから
5. その他

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

・生活保護で良い点は、どこだと思いますか。逆に悪い点はどこだと思いますか。

良い点：

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

悪い点：

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

・生活保護をゆけられる(受給しないで暮らせる)のであれば、そうしたいですか。

(対象者の書葉から判断して○をつけてください)

1. はい
2. いいえ

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

・それはなぜですか(答えにかかわらず理由をうかがってください)。

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

生活保護を受給していない方への質問

・生活保護を受給していないのは、なぜですか。

(対象者の書葉から判断して○をつけてください)

1. 現在得ている収入(年金+賃労働による収入)で十分生活できる
2. 年金額+手当で同じくらいの額になる
3. 生活保護は契約が厳しいので受けたくない
4. その他

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

・もし生活保護を受給できるのなら、受給したいですか。

(対象者の書葉から判断して○をつけてください)

1. したい
2. したくない
3. どちらともいえない

(対象者の実際の書葉を、聞いたままに記入してください)

--

・それはなぜですか（答えにかかわらず理由をうかがってください）。

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

「できない」「どちらともいえない」と答えた方にうかがってください。

・それはなぜですか。

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

(2)収入管理状況について

全員の方への質問

・あなたの収入を管理しているのはだれですか。

- （対象者の言葉から判断して○をつけてください）
1. 自分自身 5. 配偶者 9. その他()
 2. 父親 6. 子ども
 3. 母親 7. 養母さん
 4. きょうだい 8. 施設の職員

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

・あなたはあなたの収入を、好きなときに使うことができますか。

（対象者の言葉から判断して○をつけてください）

1. できる
 2. できない
 3. どちらともいえない

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

・家族などから経済的援助をうけていますか。

（対象者の言葉から判断して○をつけてください）

1. はい
 2. いいえ
 3. その他

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

家族と同居している方への質問

・あなたの収入は、家族の収入とはわけていますか。

（対象者の言葉から判断して○をつけてください）

1. はい
 2. いいえ
 3. どちらでもない

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

・お金の管理について、考えていることがあれば教えてください。

（対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください）

--

(3)所得保障にかんする意欲

全員の方への質問

・現在の所得保障制度（年金制度など）に満足していますか。

<p>(対象者の意欲から判断して○をつけてください)</p> <p>1. はい</p> <p>2. いいえ</p> <p>3. どちらともいえない</p> <p>(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)</p>
--

・それはなぜですか。（答えにかかわらず理由をうかがってください）。

<p>(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)</p>

・毎月決まった金額を得られると、必要最低限の金額は、どのような基準で決められるべきだと思いますか。

<p>(対象者の意欲から判断して○をつけてください)</p> <p>1. 生活保護費＋障害者加算＋他人介護加算分</p> <p>2. 老齢年金額＋障害者加算＋他人介護加算分</p> <p>3. 障害基礎年金＋重度障害者手当(国)＋重度心身障害者手当(都)内容</p> <p>4. その他</p> <p>(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)</p>
--

・あなた自身の状況を前提として、必要最低限の所得保障額はいくらくらいだと思いますか。

--

円

・その根拠はなんですか。

<p>(対象者の言葉から判断して○をつけてください)</p> <p>1. 一人で自立して生活するのに必要な金額</p> <p>2. 日本における平均的な生活費にみあう金額</p> <p>3. 介助を受けるための費用を平均的な生活費に加算した金額</p> <p>4. その他</p> <p>(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)</p>

・サービス保障・所得保障について、考えていることがあれば教えてください。

<p>(対象者の実際の言葉を、聞いたままに記入してください)</p>

※以上で終了です。

・お話をおうかがいした方に丁寧にうかがって、謝礼をおたしししてください。

・領収書にはんこをいってください。

(4). 貧困の実態と公的扶助システムの関係に
ついての実証分析

国立社会保障・人口問題研究所

国際関係部 第2室長

阿部 彩

厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業
「公的扶助のあり方に関する実証的・理論的研究」
分担研究報告書（総括 H15 年度）

貧困の実態と公的扶システムの関係についての実証分析

分担研究者 阿部 彩 国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

平成 15 年度は、平成 14 年度に行われた「福祉に関する国民意識調査」を用いて「最低限の生活水準」に関して社会に共通する意識が構成されているか否かを分析した。また、この結果を基に構築された「社会的必需項目」の有無を始め、経済的貧困、社会的排除など様々な側面に関する「社会生活調査」を実施し、その分析を行った。分析によると、「社会的必需項目」の欠損を表す「相対的剥奪指標」はある一定の所得以下で急速に上昇することが示唆された。

A 研究目的

本研究の目的は、社会的排除、相対的剥奪などの概念を用いて我が国における貧困を捉えなおし、低所得の生活実態と貧困の関係および生活保護制度の効果を実証的に分析することにある。

B 研究方法

本研究は、公的扶助にかかわる諸問題及び生活意識を多角的に把握するため一般市民に対する大規模調査、ケースワーカーに対するインタビュー調査、諸外国の動向を把握するための文献レビューなど多くの手法を用いて行われた。その一環として、平成 15 年度は、「社会生活調査」と題した調査が実施された。調査の目的は、世帯の貧困・社会的排除の状況を把握することであ

る。対象者は、住民台帳からの無作為抽出された 2,000 名である。また、平成 14 年度より引き続いて行われているケースワーカーのヒアリングを 2 地域で行った。さらに、アメリカにおける福祉改革の動向を把握するために、文献サーベイ、インタビュー調査を行った。

（倫理面への配慮）

マイクロデータを使用の際には、個人が特定されないように十分留意するとともに、個人情報流出のないように細心の注意を払う。

C 研究結果

平成 15 年度は、まず、本プロジェクトで平成 14 年度に行った「福祉に関する国民意

識調査」のデータを用いて、「最低限の生活水準」に関して、社会の中で基準となりうる評価（合意）が形成されているか否かを分析した。分析の結果は、「最低限の生活水準」に関する社会的評価（『季刊社会保障研究』第39巻第4号掲載）として発表されている。分析の結果は以下に要約される。第一に、異なる属性を持つ人々の間においても「最低限に必要な項目」についての意見に統計的に確認される一致性が見られた。第二に、日本においては所得や生活意識ではなく、最終学歴が人々の「最低限に必要な項目」に関する意識に大きな影響を及ぼしていることがわかった。

また、平成15年度は、筆者を含め、本プロジェクト・メンバーの数名を核とした研究者チームにより「社会生活調査」の調査票設計、調査手法の選定など実施にかかわる諸作業が行われ、調査は平成15年11月に実施された。本調査の結果報告と初期的分析は、「社会生活調査」の結果報告（報告書掲載）にまとめられている。「社会生活調査」は、タウンゼンドが開発した相対的剥奪指標（平成14年度の調査によって構築された「社会的必需項目」の欠損度）、主観的貧困（生活意識、満足度等）、経済状況（家計の状況、負債、家賃等の滞納、等）、社会的排除の状況（人とのコミュニケーション、社会生活への参加、公共施設へのアクセス等）など多岐にわたる項目について調査するものである。結果の初期的分析によると、生活の満足度、相対的剥奪指標などは世帯所得に密接に関係しており、特に、相対的剥奪指標はある一定の所得（閾値）以下で急激に上昇する可能性が示唆された。しかし、世帯所得の定義など初期分析の段階で

は不確定な部分が多いため、閾値の有無については留意が必要である。

D 考察 E 結論

平成14年度および15年度は、我が国における貧困と社会的排除の状況を把握するために必要であるデータベース構築の一連の流れといえる。平成15年度は、「社会生活調査」の実施によって、サンプルは少ないながらも通常の貧困概念をさらに拡大した多様な項目を含むデータベースが構築された。本調査のデータに基づく分析はまだ初期段階であるが、これらの分析はこれからの公的扶助行政の貴重な資料を提供することになると思われる。

F 健康危険情報

なし

G 研究発表

1. 論文発表

- ・「最低限の生活水準」に関する社会的評価『季刊社会保障研究』第39巻第4号、2004.3.25.
- ・「福祉に関する国民意識調査」『季刊社会保障研究』第39巻第4号、2004.3.25.（共著：後藤玲子 et al.）
- ・「社会生活調査」の結果報告」厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「公的扶助のあり方に関する実証的・理論的研究」平成15年度総括報告書.（共著：後藤玲子 et al.）
- ・“Low Income People in Social Security Systems in Japan,” *The Japanese Journal of Social Security Policy*, Vol.2, No.2, December 2003, pp.59-70.

2. 学会発表

『Socially Perceived Necessities』と公
的扶助理論の課題」 社会政策学会第
106 大会 一橋大学 (2003.5.17)

H 知的所有権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

「社会生活調査」結果報告

公的扶助システムに関する実証的・理論的研究会¹

国立社会保障・人口問題研究所

平成16（2004）年3月31日

1. 調査の目的

本調査の目的は、我が国における貧困と社会的排除の状況を分析するためのデータを収集することである。調査は、タウンゼンドが開発した「相対的剥奪指標」、主観的貧困概念、社会的排除の概念などを用いて、多岐にわたる項目を網羅している。既存の調査においても、社会的排除などの概念を用いたものが散見されるが（平岡 2001、厚生労働省 2003a）、本調査の意義は、全所得階層、全年齢層を母体とするサンプルとしたデータを収集することにより、タウンゼンドが発見した「閾値＝その所得値以下で相対的剥奪指標が急増する値」の確認が可能であること、相対的剥奪指標の基となる項目リストが最低限の生活に必要であると社会的に評価されていること、経済的な項目では把握しきれない社会的排除の状況が網羅されていること、の3点である。本調査は、本プロジェクトのメンバーを中心とする研究会によって、調査票設計、調査方法・対象の選定などに関する研究会を数回開催した後、平成15年11月～12月に民間調査会社に委託されて実施された。

¹ 後藤玲子（国立社会保障・人口問題研究所）、阿部彩（同）、勝又幸子（同）、菊地英明（同）、埋橋孝文（日本女子大学）、菊池馨実（早稲田大学）、橋木俊詔（京都大学）、八田達夫（東京大学）